# ねっとわぁく 188 JANUARY

長野県生活協同組合連合会　ねっとわぁく№188　2007年１月１日新春号　発行責任者：米原 俊夫

**■新年のご挨拶**

明けましておめでとうございます。
今日、「競争原理」の矛盾が社会のいたるところで生まれています。
協同することの価値が一層高くなっていると思います。
未来に向かって、意気高く進んでいきましょう。

**会長理事　米原俊夫**

## CONTENTS


**●新春対談**
「安心してくらせる地域社会を目指して」… 2
**●機関関係会議報告**
第３回定例理事会…… 7
第４回定例理事会…… 7
マスコミ懇談会…… 7
**●部会関係活動報告**
食堂部会・きのこの日フェア…… 8
医療部会接遇改善研修会…… 8
第１回大学部会…… 9
介護福祉交流会…… 9
男女共同参画シンポジウム……10
介護福祉部会と県長寿福祉課懇談……10
**●その他報告**
長野県総合防災訓練……11
**●消団連関連報告**
県消団連と県生活文化課懇談……11
県消団連幹事会……12
第37回長野県消費者大会……12
**●Information**……12

# 新春対談「安心して暮らせる地域社会を目指して」

**司会：両澤理事**：お忙しい中、新春対談においでいただきありがとうございます。今日は「安心して暮らせる地域社会を目指して」というタイトルで、協同組合の果たす役割について、「食の安全・安心への努力」、「地域コミュニティーづくり」、「持続可能な社会をつくるために」、「協同組合間協同の未来」という４つの観点からご対談いただきたいと思います。

## 食の安全・安心への努力

**若林専務**：食の安全安心については、取り組みを積み重ねてしっかりした体制を組むことが出来てまいりました。各ＪＡでは農薬の残留性を検査する機械を設置して、農家からサンプルを取り寄せ、検査して出荷するというやり方をしています。しかし、ポジティブリスト制度の問題もそうなんですが、実は農家の方にも本当にそれで大丈夫なのかという疑問もあるわけです。いわゆるドリフト対応です。長野県ＪＡでは全農長野の中に「㈳長野県農村工業研究所」という組織があります。そこでは、より精度の高いもので分析して出荷しているということを消費者の皆さんに伝え、安心してもらおうという視点で取り組んでおり、今年はＬＣ／ＭＳ／ＭＳシステムという優れものの機械を導入いたします。5000万円ぐらいするんですけれど(笑)。

**米原会長**：すごい機械ですね。我々もそれは宣伝しなければいけないですね。農村工業研究所は須坂にありますが、そういうところへ生協組合員が見学に行くことができればいいですよね。長野県の農業はこういうことをきちんとやっているって、勉強になりますからね。

**若林専務**：長野県は先駆的な農業というか、先取的な農業というものに関心を持っていて、そういう面に力を発揮するような農業県だったんですけれども、近年そのパワーが落ちてきていて残念です。私どもは、こうした農家の消極姿勢を打破して、農業生産に一生懸命取り組ませるような後押しができないだろうかと悩んでおり、ちょっと露骨ですが「儲かる農業」を一つのキーワードとして取り組もうとしております。それで、作って儲かるような、所得が上がり、野菜作りなり、果樹作りなり、畜産なり、園芸なり、お米もそうですが、やっていこうと思っております。国の「担い手育成」という方向も受け入れながら、もう一方では担い手だけ作れば、それが長野県の農業だということじゃなく、兼業農家も趣味農家も含めた裾野の広い農業者群を構築する。そのことによって、担い手も育っていくんだという二面性の中から農業を取り組んで見たいと思っています。

**米原会長**：先ほどおっしゃられた消極的になったというところは、儲からないというか、展望が見えないというところからでしょうか。

**若林専務**：ええ、長野県の農家の皆さんは、経営規

# 「安心してくらせる地域社会を目指して」

模が小さくてそれを先取気質でカバーするという体質だけにして、作物をじっくり抱いて育てていくという、孵化をさせていくという力が若干弱いと思うんです。所得比較だけがじゃなくて、コストの問題とか組合せの問題とか、安定性とか、そういう視点から見なければいけない。必ずしも所得が低いからその品目はだめだという結論にはならないと思います。これからの時代、豆類っていうのが一つのキーワードです。消費の中で、葉菜類から豆類に嗜好が変化してくるって言われてまして、いろいろな豆栽培はおもしろいと思うんです。けれども長野県の葉菜類を作っている農家からすると、そんな細かな仕事をしなきゃいけないのかって嫌うんですよね。逆に、兼業農家とかＩターンとか帰ってきた皆さん方など、新しい気持ちで農業を取り組んでいただける皆さん方に、そうした品目を取り組んでいただければ、「うんそうか、これはおもしろい」と、もう一つ新しい波ができるんじゃないかと思っています。

**米原俊夫**（よねはら　としお）
長野県生活協同組合連合会会長理事
1945年松本市生まれ。信州大学生協・長野県民生協の専務理事を経てコープながのの理事長を2006年退任。2001年より現職。

**米原会長**：豆類は、外国に依存している割合が高いじゃないですか。そういう意味では、国内で出来ればこんなに良いことはないでしょうね。

**若林専務**：信州は、地理的条件も変化に富んでいますので、今でも各地に昔ながらの品種が残っていると思います。伝統野菜は今、注目されていますが、豆類ももう一度見直してみようという動きになってきています。これはサヤエンドウ、インゲン、ナタマメなどのサヤ食べと豆を食べる両方の探求なのですが…。

**米原会長**：消費者の意識っていうこともすごく大事ですね。前からよく言われるんですけれど、農家の方とお話をすると、“皆さん曲がったキュウリとまっすぐなキュウリのどちらを買いますか？”って聞かれます。生協の組合員だと曲がったキュウリでもおいしいって言いますが、市場に行くとまっすぐなキュウリしか売れないっていう。見てくれで消費者が選ぶようになってしまったというのは、日本の農業の衰退に、一定の役割を果たしてしまったという思いもあります。

**若林専務**：生協の皆さんには感謝しております。こういう連携をしたから初めて農産物の味という視点を、生協活動の中で取り上げていただいたわけで、消費活動の中では大きいことだと思っております。今まで私たち生産者も声を上げなかった。作ることだけが自分の仕事だと思っており、うまさだとか食べ時期だとかを発信してこなかったというのは大反省です。Ａコープ店もそうなんですが、コープのお店にも産地のおいしい旬のものを置いて、これが旬の味なんだねって主張していくようなコーナーがあっても良いじゃないですか。少なくてもＡコープ店とかコープ店はそういう意味では兄弟関係の中で地元のものを大事にしたり、一足先に訴えていくというような取り組みや、そういう場作りをしたいですね。

**米原会長**：本当にそうですね。今度、コープながのでは全農長野さんを窓口にお願いして共同購入の野菜の関係を取り扱うっていう事になりました。

**若林専務**：そうですか。ありがとうございます。私どもも新しいことをやっているので、こういう風に新しくなった、ここを変えているんだという発信をいたしますのでよろしくお願いします。小さく固まって、黙ってれば売れるっていう、そういう時代じゃないですよね。

# 地域コミュニティーづくり

**米原会長**：少子化高齢化というのが社会全体の構造になっています。住んでいる場所を始め、色んな所で人間同士のふれあう場がないと本当に大変な社会になってしまうと思うんです。

**若林専務**：今のような生き方。勝ち組だ負け組みだとか競争時代だって言って、皆ある面では否定しながら、昼間の顔では肯定していますよね。少なくとも生活している地域のコミュニティーはそうじゃない価値観を意識して作る必要があるんじゃないでしょうか。住んでいる社会だけはもうちょっと助け合う、相手を思いやるっていうような心を基本としたものにする。社会ボランティアもそういう意味合いでは接近の一つなんでしょうけれども、私はむしろ食をもう少し進化させた方がいいんじゃないかと思います。ＪＡの農村地帯にも人はいるんですけれど、心の過疎が進んでおります。過疎にしないために、金融の店舗を統廃合して空いてくる店に皆で集まって一ヶ月に一遍でもいいから皆んなで作って食事しようやとか、自分たちが育った時の食事を再現してみて、それで話をしてみるってことを提案しているのですが…。

**若林甫汎**（わかばやし　としひろ）
ＪＡ長野中央会専務理事
1944年千曲市（旧上山田町）生まれ。ＪＡ長野中央会、農政広報部長、参事を経て、2001年ＪＡ長野中央会専務理事就任。

**米原会長**：食べるということはあらゆる人が必ずやっている、命をつないでいく一番の背景の部分ですから。親子の絆を確認するのだって、やっぱり食を通じてっていうのが大きいですよね。私どもは、「食べる・たいせつ」というタイトルで食育について取り組んでいます。おいしいということとか、どういう場面で食べているかとか、食を通じて暮らしそのものがどうなっていくのかっていうこと、より皆が心豊かになれるような食とは何なのかっていうことについても、深めたり勉強したり、考えていかなければいけないんじゃないかと。

**若林専務**：そういう運動にね、皆んなが目を向けてきてくれれば、変わるなって思うんですよ。だから、いじめも何も、いろんな要因があるんでしょうけれども、やっぱり一つには食べ物も大きい意味があるでしょうね。

# 持続可能な社会をつくるために

**若林専務**：長野県では普通の栽培方法より農薬や肥料を50％削減する農業をやろうっていうことを県が提起しています。これはパフォーマンス的にはいいんです。私も、否定するものではないんですが、そこにもっていくまでには一つ段階が必要になってくる。技術的にも、それから作る生産者も意識改革をしなければなりません。そのためには一定の期間も必要だし、段階が必要なんです。消費者の皆さん方からも、そういう農業の実態を理解してもらい、また現場をわかってもらい、歩み寄りの部分があって実現していくんじゃないかと思っています。

例えば、生協さんから見てまじめに取り組んでる農家の皆さん方を、表彰しようかとか。生協から見た時にあら頑張っているねって、激励賞みたいなものを出すとか…。そういう運動で引っ張っててもらうというのは、農家も喜ぶと思いますよ。農家だっ

て消費者の皆様に喜んでもらうえるものを作るという気持ちは変わりないんですから。資本の論理っていうのはどうしても短時間で結論を出して、それを利益にっていうことになる。否定しちゃいけないんでしょうけれども。要するにお金に関係するからこういう農業がいいんだという考え方はなじまない。本当に生きてるものにとって食料ってものはなんだと、それがどういう持続性があるんだという視点を、もうちょっと明確にしていかないと、混乱状態になると思います。

**米原会長**：教育の世界も資本の論理って言うのはそぐわないものだと思っているんですが、農業もそうですね。

**若林専務**：そうです。農業もおんなじ様な性格ですよ。工業製品やサービス業みたいに短時間にできるっていうものとは違う。価値観を変えないとだめですよ。日本はそれを混色一体として、こっちでこういうことをやったんだから農業（第一次産業）もそれでいいんだろうって迫ってくる。怖いのは、この動きっていうのはグローバル化ですから世界的に動いていっちゃうじゃないですか。ようするに、日本のやってることは東南アジアの皆さん方が、これから10年後とか何年後とかになって行う方針になり、その後はインドの皆さんや、アフリカの皆さん方がやることになっていってしまう…。そういうふうに伝播していきますよね。せっかく各国にある非常に大事な立地条件にあった農業を築いていたにもかかわらずね、世界のグローバル化の中で画一化される。これは大変なことだなあって思っています。

**米原会長**：本当に消費者の視点というのはきちんと座標軸を定めないと、いつも私たちは踊らされちゃうんですよね。

**若林専務**：安全・安心を見ても、私どもと生協さんとが一緒にやりながらここまで来たことが、もしかしたら安全・安心を国内に広げたのかもしれませんよ。他の産業から安全・安心なんて出ていませんでしたから。むしろ、黙っていればもっと危険なものをやっていたかもしれない。あれは国が許可したものだから良いと思ったと言って…。過去を振り返るとそのような事が多かったですよ…。

**米原会長**：皆がそこまで意識していたかはどうかは別としても、私たちは組合間の協同をしながら社会に警告を発する、そういう役割を客観的には果たしていたというのはありますね。

## 協同組合間協同の未来

**米原会長**：私ども生協は、特に長野県の場合は協同組合の大先輩たる農協の皆さんにご指導をいただいてきました。その上に立って今後は具体的に農産物を通じての提携を一層深めていくという部分と、生産者・消費者という概念を取っ払って、人と人が同じ地域の中で共に助け合って、どう生きていくのかっていうことを、真剣に問題意識をお互いに持って、具体化していくような取り組みを考えて行かなければならないと思っています。地域社会がものすごく変化してきて、住んでいるエリアも含めて、コミュ

ニティーというのが実際は崩壊しつつあるという中で、生協・農協が社会の中で一定の役割を果たしていると思うんですね。それを育むということと同時に、同じ地域に住んでいる人たちがどうしたら仲良くふれあって生きていけるか、助け合って生きていけるかっていうことを考えていくことが今大事だと思っているんです。

**若林専務**：今、会長さんが言われたように、食の問題だとか、健康の問題だとか、地域の問題だとかが、これからの協同組合間協同のテーマになると思うんです。互いに意見交換しながら、意識の中で無理をすることではなく、しかし、運動の方向は一緒だと。例えば食べるって言うことを両方の共通課題としてやってみようということになれば、生協のコープ店でやっていただいても結構ですし、Ａコープ店もやってみたりとかね、そういうことがあってもいいんじゃないかと思いますね。ＪＡグリーン長野の松代店では松代の小学校がＪＡに指導してもらって長芋やジャガイモなんかを作って、Ａコープ店の子どもマーケットで並べて食べてもらうという運動をしております。そういう取り組みを生協のお母さんたちにもお話いただき、賛同が得られれば、私どもが土地を心配をして、お母さんたちが子どもたちと一緒に作って見ましょうかと、そこで取れた農産物をコープ店で並べて売る、毎回じゃなくてもいいけど食べ比べてみる、「私たちが作ったものもけっこう美味しく食べられるんだ」という話もする。これは私たち協同組合のやるべき分野だと思いますね。そんな入り口が開ければ、そこにおじいさんやおばあさんたちも入ってくる。そこには先ほどの食のような話も当然出てくる。おもしろいと思いますよね。

**司会**：協同組合だから出来る体験ですね。

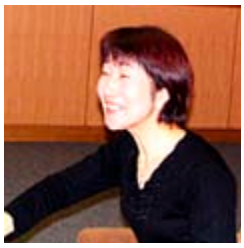
**若林専務**：今、ＳＢＣさんが中に入って「大豆百粒運動」ってやっているんです。子どもたちに大豆を作ってもらうっていう運動なんですけれど。その中で、全然農業と関係のない企業の皆さんも参画してくるんですよ。子どもたちと一緒に大豆を作るっていうことにね。これは、おもしろい動きだと思います。生協さんにも関係の深い「みすずコーポレーション」の塚田会長さんも大豆の会に入ってもらっており、昨年秋には収穫祭を行いました。農業や地域に限定するのではなく、いろいろな人々を横断的に巻き込むような運動も必要だと思います。決してエリアをロックして、うちの方に来いっていう理論じゃなくて、間口を広くしていろいろな人とジョイントの場があると言うことは楽しいことです。

**米原会長**：それは本当に素晴らしいですね。本来、そういう役割を協同組合っていうのは社会的には持っているんですよね。

**司会：両澤理事**：若林専務のお言葉にもあったんですが、一つにまとまろうとするんじゃなくて、多様性を認めながら、巻き込みながら連携を強めるってことが大事ですよね。

今日は、新春対談にふさわしく、未来への可能性を存分に語っていただいたようにと思います。

私たちは、組織間の連帯と協同の多様性を認め強めながら未来を切り開いていかなければいけないんだなあということを思いました。今日の対談の中で、道筋と希望を見せていただいたように思います。お忙しい中を本当にありがとうございました。



## 第３回定例理事会

10月25日(水)、第３回定例理事会をホテルサンルート上田（上田市）において開催しました。第２回定例理事会以降の会議報告等を確認し、長野県消費生活条例の制定に向けた取り組みや下期の県生協連事業の計画、北朝鮮の地下核実験の強行への抗議声明、県生協連パンフレットの発行について協議しました。

第３回定例理事会で挨拶する米原会長

## 第４回定例理事会

12月７日(木)メルパルクながの(長野市)において、第４回定例理事会を開催しました。第３回定例理事会以降の間に行われた機関会議や医療部会、大学部会などの他、関係諸団体の会議などの報告を確認しました。県生協連が主催する男女共同参画シンポジウムやトップ幹部研修会について報告するとともに、生協法改正について厚生労働省へのパブリックコメントを提出する件や、長野県の消費生活条例への県消団連の要望、県生協連主催の賀詞交歓会の持ち方等について協議しました。

第４回定例理事会

## マスコミ懇談会

12月７日(木)、第４回定例理事会終了後に、マスコミ懇談会を開催しました。生協連からは会長、副会長、専務をはじめ理事・監事が９名参加し、新聞社からは、朝日新聞、信濃毎日新聞、中日新聞、日本農業新聞、読売新聞の５社からそれぞれ記者の方々５名が参加されました。県生協連や会員生協の活動内容について説明報告する中で、ざっくばらんで具体的な質疑応答ができました。各会員生協の持つ特徴や特色などについても理解が進んだほか、長野県消費者条例制定の取り組みについても活発なやりとりができ、有意義な懇談会となりました。

## 食堂部会きのこの日フェア

11月11日の「長野県きのこの日」にちなみ、食堂部会では県産品愛用運動の一環としてＪＡ全農長野の協力を得て「きのこの日フェア」を開催しました。曜日の関係から、セイコーエプソン生協では11月10日(金)に本社を含む12事業所の食堂で「きのこ汁」を提供しました。また、信州大学生協の６食堂と長野県短期大学生協、長野県看護大学生協、松本大学生協の食堂では、11月10日と13日(月)14日(火)の土日をはさんだ前後の日程で「きのこ汁」「きのこの中華丼」を提供し、大変好評でした。

## 医療部会接遇改善研修

講師の日本生協連医療部会・藤谷恵三事務局長

11月12日(日)に長野医療生協において、医療部会接遇改善研修「医療生協の事業と医療生協人」を開催し、３つの医療生協から57名の役職員が出席しました。

高藤部会長（長野医療生協専務）による開会挨拶の後、日本生協連医療部会藤谷恵三事務局長が「医療生協の事業と医療生協人」～地域の協同と接遇にふれて～　と題して講演を行いました。医療・介護をとりまく情勢について話されたほか、医療生協の目的が組合員の幸せのために事業を行うことであり、健康づくり活動やまちづくり活動として医療を見つめなおす事が大事であると述べられました。また、「医療生協人」運動として、組合員の満足度を高めることが接遇であると話されたほか、地域の思いを協同の力で「かたち」に変えるという2012年の医療生協の姿について述べられ、参加者から大変参考になったとの感想が聞かれました。

# 第１回大学部会

11月28日(火)ホテル信濃路（長野市）において第１回大学部会を開催し、関根部会長（信州大学生協専務）以下、大学生協から５名、県生協連から２名が参加しました。小松事務局長が過去の大学部会について報告を行った後、2006年度の経営の到達点と2007年度の基調について各生協が報告を行い情報交流しました。今後の活動として、新年学習交流会の開催について関根部会長が説明し、部会の交流会とすることを確認しました。また、毎年６月、９月、11月に情報交換の場として部会を開催することを決めました。

第１回大学部会

# 介護福祉交流会

12月９日(土)メルパルクながの（長野市）において、平成18年度介護福祉交流会を開催し、全労済長野県本部・コープながの・長野医療生協・東信医療生協・上伊那医療生協・長野県高齢者生協からデイサービススタッフ、サービス提供責任者の方々を中心に26名が参加しました。はじめに川﨑部会長（全労済長野県本部専務）が挨拶を行い、長野医療生協の高藤美和子専務が「協同組合の介護・医療の理念、考え方」と題し、基調講演を行いました。その後、３グループに分かれてのグループ討議を開催し、討議内容の発表・質疑を行いました。最後に参加者全員で交流懇談会を行い、日頃の悩みや職場の状況等情報交換することができ、参加者にとって有意義な情報交換の場になりました。

平成18年度介護福祉交流会

# 男女共同参画シンポジウム「ジェンダーフリーのDNA養成講座」

県生協連は、12月18日(月)男女共同参画シンポジウム「ジェンダーフリーのＤＮＡ養成講座　～　明るく　しぶとく　しなやかに　～」をメルパルクNAGANO（長野市）で開催し、地域生協・医療生協・大学生協・美容生協などから31人の参加がありました。

パネルディスカッションの様子

三部校正で行われたシンポジウムは、長野大学の鷹野和美教授（医学博士）が、「男女共同参画についての意識調査」の結果や女性の家庭内役割などについての分析をプロジェクターでわかりやすく説明し、問題提起しました。続いて行われた３世代のリレートークでは、30代～40代の発言者としてコープながのの沓掛朗美さんが「子育て」をテーマに。40代～50代の発言者として長野医療生協の牧野信子さんが「家庭と仕事の両立」をテーマに。60歳代～の発言者として長野県高齢者生協の小沢房生さんが、「男性の社会参加、家事参加」をテーマに話をされました。３人の発言者のオブラートに包まない話に、参加者のウンウンとうなずく姿があちこちで見えるほど会場の共感を呼びました。休憩をはさみ、鷹野先生をコーディネーターに、発言者の方々とのパネルディスカッションを開催しました。発言者のトーク内容について掘り下げながら、それぞれの子育て時代の男女共同参画に関わる特徴について発言を求めたり、家庭における介護問題や役割分担、定年後の夫婦間のあり方などをディスカッションしました。

# 介護福祉部会と県長寿福祉課が懇談しました

12月22日(金)、県庁西庁舎において介護福祉部会と県長寿福祉課との懇談会を開催しました。県長寿福祉課の４つの係からそれぞれ係長が出席し、介護福祉部会からは川﨑部会長以下８名が参加しました。生協側からは、介護福祉部会や会員生協の取り組みの現状報告を行ったほか、介護福祉交流会で出された介護保険制度の改正後の介護現場の状況などについて説明しました。県の介護福祉行政について説明を受けることもでき、率直な意見交換を行うなど有意義な懇談ができました。

# 長野県総合防災訓練

現地本部での救援緊急物資調達・輸送訓練

10月24日(火)、木曽駒森林公園一帯において、「平成18年度長野県総合防災訓練」が実施され、救援緊急物資調達・輸送訓練にコープながのから２名と生活クラブ生協から２名が参加し、給食訓練には県生協連から２名が参加しました。長野県総合防災訓練は、災害対策基本法・長野県地域防災計画に基づいて防災関係機関と自主防災組織・地元企業・地域住民・諸団体などが相互に連携して各種の防災訓練を総合的に行うもので、毎年県内の市町村が会場となって実施されています。救援緊急物資調達・輸送訓練では、「救援物資輸送車」の横断幕をつけたコープながのと生活クラブ生協の配送車が、㈳長野県トラック協会のトラック等と救援物資を本部前に輸送しました。給食訓練では、赤十字奉仕団が作った「おにぎり」を、県生協連やＪＡ長野中央会、木曽町などの訓練参加者が配送先別に仕分けする作業を行いました。



# 県消団連と県生活文化課が懇談会を開催しました

11月17日(金)、県庁議会棟特別会議室において県生活文化課の佐藤課長以下４名の職員と県消団連の９名が懇談会を開催しました。消団連が取り組む長野県消費生活条例の制定検討の進め方や、ガソリン・灯油価格の監視について懇談を行い相互に理解を深めました。その他、消費者行政に対する要望を伝えることができ、有意義な懇談会となりました。

# 県消団連が第６回幹事会を開催しました

県消団連は11月21日(火)、長野県婦人会館において第６回幹事会を開催しました。第５回幹事会以降の会議や諸活動の報告と、行政・諸団体からの情報提供を確認しました。長野県消費生活条例の制定を求める運動の取り組み、消費者大会の開催等について協議しました。

# 身近な活動発表やＢＳＥの学習で充実した第37回長野県消費者大会

12月１日(水)、県消団連主催の「第37回長野県消費者大会」がサンパルテ山王（長野市）において開催されました。「消費者重視の社会のために“みんなで考えよう！消費者の役割”」をテーマに、県下各地から170人の参加者がありました。午前の部では、４つのグループから活動発表がありました。『長野県労働者福祉協議会』からは「生活あんしんネットワークの取り組み」。『北信地域消費者の会連絡会』からは「寸劇・ばあちゃん、ひとりできめないで」。『丸子地域消費者の会』からは、「定期道路清掃・ものづくりリサイクル教室活動」、『県連合婦人会』からは「活かそう資源有効利用の活用を」というテーマで、それぞれの地域での環境活動が紹介されました。午後は、青山学院大学教授の福岡伸一氏が「食の安全・今何が問題か」と題して基調講演を行い、ＢＳＥ問題について、発生の経緯や原因、現在の問題など、科学的な内容をとてもわかりやすくお話いただきました。

## Information

- ■１月４日(木)　仕事始め
- ■１月５日(金)　県労福協新春交歓会
- ■１月10日(水)　県食肉消費対策協議会役員会・交流会
- ■１月11日(木)　農林統計情報懇談会
- ■１月13日(土)　大学部会・研修会
  県労福協くらしなんでも相談ほっとダイヤル
- ■１月17日(水)　消費者団体訴訟制度説明会
  県連災害対策検討委員会
- ■１月18日(木)　県労福協生活あんしんネットワーク委員会
  県消団連幹事会
- ■１月20日(土)　男女共同参画推進会議部会
- ■１月24日(水)　第８回常任理事会　　トップ幹部研修会
  県生協連賀詞交歓会
- ■１月25日(木)～26日(金)　県労福協合同研修会
- ■１月26日(金)　国際協力田発送式
- ■１月29日(月)　県労福協体育大会実行委員会
- ■２月２日(金)　中央地連：食の安全学習会
- ■２月５日(月)　県労福協ニュース編集会議
- ■２月７日(水)　第７回常任理事会
- ■２月14日(水)　中央地連大規模災害対策協議会
- ■２月20日(火)　信州コンフォート畜産シンポジウム
- ■２月20日(火)～21日(水)　食堂・売店部会県外視察
- ■２月21日(水)　労福協理事会
- ■２月22日(木)　中央地連：都県連責任者会議
- ■２月23日(金)　第５回定例理事会
- ■２月28日(水)　中央地連：生協法改正状況報告会

**会報　ねっとわぁく№188**
**発行：長野県生活協同組合連合会　〒380-0921 長野市栗田950-6 メゾン栗田102**
**TEL 026-224-3161　FAX 026-224-3162**
**ホームページ http://nagano-seikyoren.org/index.php**

PRINTED WITH SOY INK
古紙配合率100%再生紙を使用しています